



ご挨拶

今年の10月には、「アメリカの量的緩和終了」と同じタイミングで日銀の追加緩和が決定して、円安、株高の流れになりました。原材料の値上がりや企業収益や家計を圧迫している中、「アベノミックス」の判断を仰ぐ師走の選挙に突入しましたが、その行方が気になるところです。

11月8日、「国立京都国際会館」で開催された「第2回同志社校友会大懇親会」に参加し、百田尚樹氏（校友）の講演を聴きました。「先の大東亜戦争で、粉碎された日本を復興させたのは、4人に1人が戦死した大正後半生まれの人達だ。自分の出世や利害を越えて、国益の為に必死に踏ん張った彼らの背に手を合わせたい。」と涙目語る百田氏の姿が心に残りました。小説：「海賊とよばれた男」を読みましよう。

末筆になりましたが、来年も校友の皆様にとって、平穏で、心豊かな年になりますようお祈り申し上げます。
群馬県支部 支部長 中山捷介

26年度支部総会・合同懇親会及び地域交流講演会

9月14日（日）正午から「マリエール太田」で、支部総会が始まり、午後1時からの大学院教授浜矩子氏による「地域交流講演会」を経て、同窓会と合同の懇親会が、午後3時から開催されました。総会は、入江幹事長の司会で始まり、中山支部長の挨拶と行事報告、続いて山崎会計幹事による会計報告と松本幹事の監査報告がありました。その後、支部役員改選につき、小泉副支部長から説明がありました。

講演会には、同志社の卒業生80名と一般市民170名を含めた250名が集まり、会場は満席状態となりました。水谷理事長より冒頭のご挨拶を頂いた後、浜先生は、明快な論理を展開し、「国境を越えて、共生の道を進むことが、未来への道である。」と話され、会場からは、万雷の拍手が沸き上がりました。参加された方々から、「今の時代において、歩むべき方向を見出した気がする。稀に見る素晴らしい講演であった！」の声を耳にしました。

懇親会は、水谷理事長、浜教授、田中校友課長、中村校友会副会長、玉村同窓会会長をはじめ、近隣校友会支部代表の方々、それに新島学園大平理事長、新島短大狩野学長、新島学園中学・高等学校岩間校長他のご来賓の方々をお迎えし、総勢78名の懇親会となりました。田村幹事と樽見同窓会幹事の司会で懇親会が始まり、中山支部長の挨拶の後、水谷理事長、中村校友会副会長および大平新島学園理事長から祝辞を賜りました。続いて、山下幹事のご祈祷の後に、田中校友課長の乾杯の音頭で宴会がスタートしました。

会場は、ジャズシンガーのライブ演奏で始まり、楽しい和やかな雰囲気となりました。途中、校友の一人が飛び入りで、ピアノ演奏を買って出る一幕もあり拍手喝采でした。しばらくの歓談後、10名の初参加者には、自己紹介・スピーチしていただきました。お開きでは同窓会群馬支部の豊泉支部長の挨拶、最後に角田幹事の先導で、全員が肩を組み、輪になりカレッジソング斉唱と同志社チアをし、高揚感のうちに午後5時半に閉会しました。



新島研究会

今年4年目を迎えた新島研究会は、昨年に続き同志社山脈に連なる人々を取り上げ、その生涯や思想を検証しました。明治・大正・昭和の三時代に亘り、思想家・言論人として活躍し、「国民新聞」を主宰、大著「近世日本国民史」を著したことで知られる徳富蘇峰、キリスト教思想家で宗教的観点から絶対非戦を唱え、足尾鋳毒事件や廃娼運動等、時代批判を行った柏木義円、「世界で一番良い国は日本である。日本で一番良い所は京都である。京都で一番良い学校は同志社である。」と言われた同志社女子部の母、M.F.デントンの生涯。社会主義運動の先駆者であり、日本野球の発展に貢献し、「学生野球の父」と呼ばれた安部磯雄。

来年も引き続き新島の思想信条が、我々の偉大な先輩に与えた影響の足跡を辿り、検証するとともに、新島襄ゆかりの地への旅行や外部講師を招いての講演等も計画しています。会員は現在12名で、更に増やす計画ですので、皆様のご参加をお待ちしています。（文責：鳥本）

新島研究会「函館・風間浦」紀行

◎函館の旅（文責：寺岡）

今年の旅は、新島先生が脱国して150周年にあたる函館にした。脱国した日と同志社主催のイベントに合わせて、6月14日・15日の強行な日程だったが、群馬の同窓会OGを含め10名が参加した。初日「新島襄海外渡航記念碑」の碑前式典に参列し、当時の先生の心境はどうだったのか。おそらく希望と不安が交錯していただろうと先生の想いを馳せた。式典後、「函館ハリスト正教会」「旧イギリス領事館」など異国情緒溢れる旧跡を散策。夜は、新鮮な魚介類を堪能し、函館山から夜景を楽しむ。翌日「五稜郭」を見学し、空路で帰郷した。

◎風間浦への旅（文責：眞下）

6月15日、「津軽海峡フェリー」の佐藤社長（校友）案内で、函館から青森県大間港に着く。そこから、新島先生が潮待ちを余儀なくされて寄港した風間浦村「海峡いさりび公園」にバスで向かう。公園には「新島襄寄港記念碑」があり、約100名の参加のもとで「碑前祭」が行われた。村長はじめ村民は同志社との交流に力を入れていると感じた。当日の夜には、新島先生を思いながら「下風呂温泉」に浸りました。また、村長や村の三役そして大谷総長等と懇親の宴をもつという、得難い機会であった。





春の集い

3月29日(土)、32名の校友会・同窓会有志が高崎マリエールに集合し、昨年恒例行事となった『春の集い』を開催しました。今回最大の成果は、岡崎相談役(昭19法卒)が94歳の高齢にも拘わらずお元気で参加されたことで、久々の雄姿に一同感激しました。

第1部は、志村和次郎会員(昭36法卒)が講師となり、「新島襄が群馬に残した礎」と題して講演をして頂き、全員で拝聴しました。

第2部は中山支部長の開会挨拶、鳥本副支部長が入学式で朗読する「同志社大学設立の旨意」の抜粋版を見事に朗読紹介、加辺副支部長の乾杯の音頭で懇親会が開始され、和やかな時を過ごしました。

閉会挨拶を同窓会の豊泉支部長にして頂いた後で、全員でカレッジソングと同志社チアを合唱して終了となりました。(文責：内田)



ホタル鑑賞会

6月24日夜、赤城自然塾の小林善紀氏(校友)のご尽力で、関西3大学交流会の一環として、「蛍鑑賞会」を催した。場所は前橋市粕川町に在る「サンデンフォレスト」内のビオトープ池(生態系を復元する調整池)。午後6時に「サンデンフォレスト」内の「森の教室」に集合。見学者は20名。小林氏から環境に優しい工場建設の説明を聞いた後、DAN-COYA(社員向け保養施設)で食事。暗くなるのを待って7時半過ぎ、ビオトープ池で乱舞する蛍を鑑賞した。曲線を描いて放つ源氏ボタルの輝く光に歓声をあげていた。(文責：鳥本)



安中・会津キャンプ

9月10日(水)、同志社大学の学生(1回生～院2回生)12名と教職員5名による、群馬県(安中)と福島県(会津若松)の視察(通称：安中・会津キャンプ)のご一行様と、群馬県校友会・同窓会の有志12名で高崎マリエールにて懇親会を行いました。

懇親会の企画も全て学生達が行ない、司会も2回生の出口君が緊張しながらも、きちんとタイムキープをしながら、リードをしてくれました。最初に一行を率いているリーダーのキリスト教文化センターの石川所長からお礼の挨拶を頂き、続いてそれに応える形で群馬県支部の中山支部長が挨拶を行い、新島学園短期大学の狩野学長の乾杯の音頭で懇親会が開かれました。

学生達から最近の同志社大学の様子を写真入りのスライドで紹介してもらい、何十年も前に卒業して以来、学校の様子を見ていない校友も、その変遷の様子に驚いて説明を受けておりました。

一行は翌日安中を視察後、バスで会津まで移動し、翌々日に会津視察して帰路になる予定で、期待を胸に秘め、解散となりました。(文責：内田)



同志社・関西学院親睦ゴルフコンペ

10月24日(金)、「関越ハイランド」で、同志社と関西学院の有志8名で、親睦ゴルフコンペを行いました。

同志社からは、五十嵐、鳥本、入江、三輪、中山の5名が参加しました。丁度、紅葉が始まった小春日和の中、楽しいひと時を過ごしました。優勝は、中山氏(昭40工卒)でした。



お知らせ HP(<http://www.gunma.doshisha-alumni.org/>) 立上げ

群馬県支部のHPを9月に正式オープンしております。上記のURLからご覧ください。ご意見等を頂けると幸いです。

平成27年計画案

来年の主な校友会行事です。奮ってご参加下さい。

行事内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	記事
春の集い			○										
ゴルフ					○					○			
ハイキング											○		
旅行						○							
総会・懇親会									○				

群馬県支部「春の集い」の開催について(予告)

2015年3月7日(土)午後6時から「マリエール高崎」において「春の集い」が開かれます。

初めての校友のご参加、お待ちしております。

是非、参加しましょう！
詳細のご案内は、後日改めて差し上げます。



総会・懇親会出席のお願い

同志社に学んだ校友が、一堂に会し、旧交を温める場です。是非、総会・懇親会にご参加下さるようお願いしています。
2015年9月27日(日) 予定
(マリエール高崎) 予定